

北海道がん診療連携協議会医療部会放射線治療プロジェクトに関するロジックモデル暫定版について

- ロジックモデルは、プロジェクトの目的、活動、成果を視覚的に整理し、関係者間の共通理解を促進することが出来、ひいては戦略的計画や効果的な資源配分、意思決定の支援に寄与する可能性がある。
- 今回、医療部会で放射線治療についての均てん化・集約化を検討するにあたり、北海道がん診療連携協議会放射線治療プロジェクトロジックモデル暫定版を作成した(下図)。
- 現在、議論が進行しているのは、中間アウトカム1.「新たな治療提供体制が整っている」、の部分であり、現状を把握し将来像を描き合意形成する事を目指している。
- 今後、青山委員が提示した 2040 年での放射線治療の需給関係および、二次医療圏別必要リニアック台数についての推計(資料 7-1 スライド 15)を、ベンチマーク部会でより精度を高め、次回の協議会で提示し承認していただくことを目指す。

放射線治療ロジックモデル暫定版

